



説教要旨「愛し合えないわたしたち」

レビ記 19 章 18～19 節

ヨハネによる福音書 13 章 34～35 節

人を愛し、人に親切にする。多くの人が、倫理道德として何度も言い聞かされてきたのではないのでしょうか。それは、弟子たちにとっても同じでした。

「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい」（レビ 19:18）。これは、昔から語り継がれてきた、古くからある教えです。そんな弟子たちに、イエス様は“新しい掟”として、「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」（ヨハネ 13:34）と教えています。イエス様の言う“新しさ”は「わたしがあなたがたを愛したように」というところにこそあります。

イエス様が弟子たちに示された“愛”は、下僕のようになって弟子たちの足を洗われる愛です。すべての人々の罪を引き受けて、自ら十字架の死へと歩まれる愛です。この愛を受けた者として、イエス様に倣って、互いに足を洗い合うように、隣人の罪を担い、赦し合いながら歩む者となるようにと、わたしたちは促されているのです。しかし、それは簡単なことではありません。自分のことを棚に上げて、他人の罪を裁こうとするのがわたしたちの常です。また、自分に対する隣人の罪を赦すことはなかなか出来ないのではないのでしょうか。

イエス様がわたしたちを愛してくださったのと同じ愛で、互いに愛し合うことは、誰にも実行することが出来ない掟です。わたしたちの愛は、逆立ちしても神の愛には届きません。イエス様から受けた愛を、イエス様に対してお返ししようとしても、決して釣り合いなどとれません。けれども、だからこそイエス様は、「互いに愛し合いなさい」と言われているのではないのでしょうか。わたしたちはイエス様から受けている大きな愛を、イエス様に直接お返しするのではなく、隣人へと愛のお裾分けをするのです。

わたしたちは決して、イエス様と同じようには人を愛することが出来ません。けれども、イエス様の愛の大きさと、自らの愛の無さをかみしめつつ、互いに仕え合い、互いに愛し合うものであろうとして歩むとき、そんなわたしたちを通して、イエス様の愛がこの地上に示されていくのです。